

ネパール園芸開発計画プロジェクトと果樹害虫防除

(杉浦哲也氏原図、本文 32 ページ参照)



- ① ランタンヒマラヤのベースキャンプ。標高 5,400 m、ここにも山岳のシェルパ族の生活があり、チベット仏教のゴンパもある。はたらくチョルテンの先がランタン。
- ② リンゴ苗木で自活するキマダラカメムシ近似種のふ化幼虫
ナシ、クリ、カンキツで成・幼虫ともに生息し、実被害は果実である。
- ③ カキの若葉を食害するインドキシタクチバ (*Hypocala rastrata* FABRICIUS) 老熟成虫。
若齢期は体色は緑色で、ハマキガ幼虫を思わせる。年3~4世代経過する。
- ④ ネパール平野部テライの菜種畑。12月から1月上旬が開花時期で食用、カンテラにも欠かせない。近年作付も急減しているが、チトワン地域での栽培は多い。
- ⑤ 赤いツバの花。標高 2,000~4,000 m で栽培される。8月下旬から9月が開花時期となる。日本の白花種と食味はほとんど変わらない。
- ⑥ カンキツ最大の病害グリーンング病。ボカラ農業改良普及員。
- ⑦ ナシ熟果を加害するミバエ被害。ミカンコミバエが優先種で、次いでウリミバエ、セグロウリミバエの加害を認めた。
- ⑧ ネパール蚊帳生地試作袋で果実害虫・鳥害防除の試験